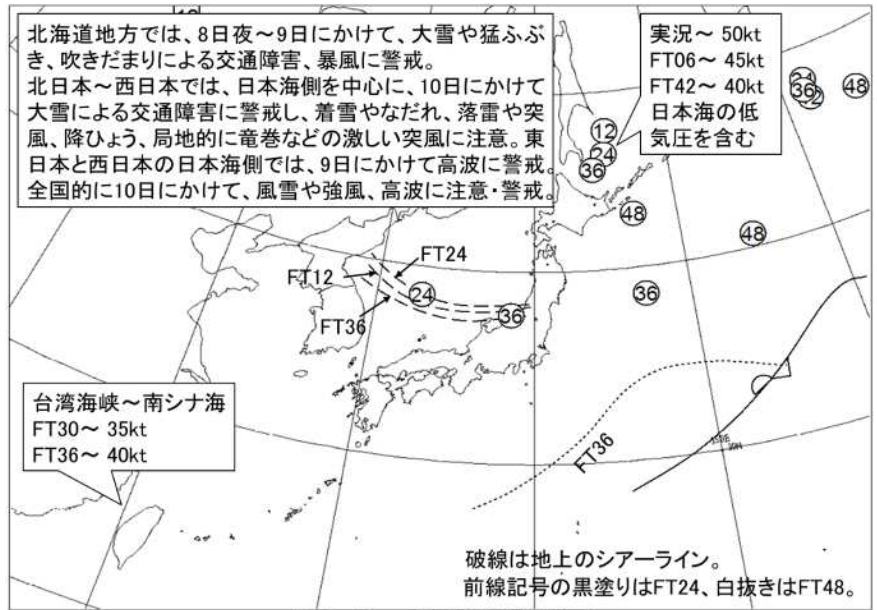


1. 実況上の着目点

① 発達した低気圧がオホーツク海にあって北西進。日本付近は冬型の気圧配置となっており、気圧の傾きが大きく、広い範囲で強い風や非常に強い風が吹き、東日本～西日本ではしけとなっている所がある。日本海～北陸地方付近には日本海寒帯気団収束帯(JPCZ)が形成され、周辺では局地的に1時間に10～20mmの雨量を解析、雷を検知。北～東日本日本海側の山沿いを中心に、3時間に10～15cmの降雪を観測。西日本には850hPa-6℃以下の寒気が流入しており、9時の高層観測850hPaでは、福岡で-7.1℃、松江で-8.9℃を観測。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の低気圧は、9日にかけてオホーツク海をゆっくり南下する。500hPa-42℃以下の寒気を伴った5100m付近の寒冷渦が8日夜にかけて中国東北区へ南下し、500hPa -39℃以下、700hPa -24℃以下の寒気を伴った5160～5400mのトラフが10日にかけて、本州付近を通過する。寒冷渦や寒気を伴ったトラフの接近に伴い、9日朝にはJPCZ上の日本海で新たに低気圧が発生し、9日夜に北陸地方に東進し、その後不明瞭となる。また、9日は西日本に850hPa-12℃以下の強い寒気(平年より10℃前後低い)が流入する。北日本～西日本では10日にかけて、上空寒気やJPCZ及び低気圧の影響により、大気の状態が非常に不安定となり、降雪量が多くなる所がある。北～西日本では、大雪による交通障害に警戒し、着雪やなだれに注意。また落雷や突風、降ひょう、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。特にJPCZやJPCZ上の低気圧周辺にあたる北陸地方～東北地方日本海側では、降雪が強まり短時間に積雪が増えるおそれがあることに留意。

② 日本付近は、10日にかけて気圧の傾きが大きいいため、全国的に雪を伴った非常に強い風や強い風が吹き、日本海側の海上では大しけとなる所がある。北海道地方では、8日夜～9日にかけて、猛ふぶき、吹きだまりによる交通障害、暴風に警戒。東日本と西日本の日本海側では、9日にかけて高波に警戒し、全国的に10日にかけて、強風や風雪、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 降雪量(18時からの24時間)：東北・北陸・東海70、北海道・中国60、関東甲信・近畿・四国30、九州北部25cm。③ 波浪(明日まで)：北陸・近畿6、北海道・伊豆諸島・中国5、その他広い範囲で3～4m。④ 高潮(明日まで)：西～北日本では、注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 「大雪と暴風雪及び高波に関する全般気象情報」を17時頃に発表予定。